

## 事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 山梨市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校のメリットを最大化させる方策  
※事業計画書「3. 研究主題」と同じ
3. 研究タイトル : タブレット端末の教育利用による統廃合課題の改善について  
※事業計画書「4. 研究タイトル」と同じ
4. 研究課題 : ・コミュニティ・スクール導入に向けての研究・協議  
・統廃合に伴う学校施設の計画的な利用及び地域人材の積極的な活用  
・ICT機器の活用による会議資料等の精選及び効率化への対応  
・アクティブラーニングによる地域のよさや伝統・文化等を実感できるカリキュラム  
・タブレット端末の活用による家庭学習の習慣化と効果的な学習方法への対応  
※事業計画書「5. 研究課題」と同じ  
※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

### 5. 事業の実績

#### (1) 調査研究のねらい

「小規模校のメリットを最大化させる方策」のまとめの1年となる。そのまとめは、これまで2年の成果をもとに、継続性・発展性のあるものとした。笛川小は、4つの地域が一つとなった統合校として、各地域の核となり、各種連携を進め、地域に対して情報発信等を行う等の責務があると考え。広がった牧丘・三富地域の核としてスタートするための1年目の取組とも考えたい。以下を研究の柱とする。①学校統合後の児童・生徒の社会性を育む（保・小・中の連携など）②地域の良さや伝統文化を実感できる教育活動の実践（①②には、ICT機器の活用やアクティブラーニング手法・学校運営協議会の協力などで実践を支える）③ICT機器を活用した実践及び情報発信

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。

#### (2) 調査研究の実施状況（平成29年度）

4月	・学校と市教育委員会担当打合せ ・校内研究体制の構築
5月	・学校と市教育委員会担当打合せ ・保護者ボランティアの組織化「読み聞かせボランティア」
6月	・第1回「笛川小学校学校運営協議会」 ・第1回「活力ある学校教育推進会議」 ・保護者ボランティアの組織化 牧丘朗読会「読み聞かせ」 ・地域素材、小中連携活動「棚田の再生活動」 ・地域の良さを知る学習
7月	・地域の良さを知る学習 ・統廃合校草刈り ・地域へ配布する葉ボタンの栽培開始 ・「笛川小学校運営協議会だより」第1号の発行
8月	・「小・中連系会議」笛川小学校、笛川中学校 ・「学力向上のための講演会」〈講師〉秋田県教育庁義務教育課長佐藤有正様

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野大学の学生・地域の老人子ども・市観光課・学校教育課</li> <li>・「山の学校」統廃合に伴う学校施設の計画的な利用（牧三小）</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA奉仕作業</li> <li>・地域素材，小・中連携活動「棚田の再生活動（草取り）」</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笛川小第2回運動会</li> <li>・笛吹童太鼓の発表</li> <li>・第2回「活力ある学校教育推進会議」</li> <li>・ICT機器を活用した授業実践 第1学年【道徳】研究授業</li> <li>・世代間交流グランドゴルフ</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業実践 第4学年【特別活動】研究授業</li> <li>・笛川小「子どもまつり」</li> <li>・「小・中連系会議」笛川小学校，笛川中学校</li> <li>・児童会活動「地域への葉ボタンの配布」</li> <li>・読み聞かせボランティア</li> <li>・親子科学工作教室</li> <li>・第2回「笛川小学校学校運営協議会」</li> <li>・第3回「活力ある学校教育推進会議」</li> <li>・「コミュニティ・スクール推進フォーラム」への参加 (ポスター発表・パネルディスカッション)</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「笛川小学校学校運営協議会だより」第2号の発行</li> <li>・読み聞かせボランティア</li> <li>・保育所との交流（2学年）</li> <li>・あいさつ運動 生徒会・児童会（小・中連携）</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「笛川小学校学校運営協議会だより」第3号の発行</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業改善研修会」〈講師〉秋田県教育庁義務教育課副主幹三浦 亨様</li> <li>・統廃合した3校の清掃活動</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回「笛川小学校学校運営協議会」</li> <li>・第4回「活力ある学校教育推進会議」</li> <li>・「笛川小学校学校運営協議会だより」第4号の発行</li> </ul>

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

## 6. 事業の成果

### (1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

#### 1 学校統合後の児童・生徒の社会性を育む

##### (1) 芽生えた活動の笛川小内への位置づけ，組織化

コミュニティ・スクール化によって生まれた，地域からの働きかけについて，より効果的な働きとなるよう学校内に位置付けた。（具体的には，学校ボランティアなどの保護者の活動，行事やクラブ活動など教育課程に位置付け，児童が取り組むもの）

##### ①「読み聞かせボランティア」による活動

平成28年度中に1年生の保護者から「図書ボランティアをしたい」との申し出があった。そこで母親たちの希望と学校のニーズを話し合い、今年度から児童への「

読み聞かせ」をしていただくこととなった。

司書が窓口となり、月に1回程度(学期に3~4回程度)朝の読書の時間を利用して保護者ボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。

5月のスタート時には7人ほどのボランティアスタッフが、現在では11人までに増えている。今後も保護者同士のつながりで活動の広がりを期待したい。

#### ②「牧丘朗読の会」による読み聞かせ

牧丘地区を中心に活動する「牧丘朗読の会」の方々による読み聞かせを今年度も継続して行った。また、今年度は、7月に笛川小の音楽室を会場に「夏休みお話し会」を開催し、90人以上の児童が参加した。

#### ③「笛吹童太鼓」のクラブ活動への導入

三富地区在住の方を中心に旧三富小学校で行われていた和太鼓の演奏「笛吹童太鼓」について継承をしたいという願いがあり、学校との話し合いを重ねクラブ活動として学校の活動に位置付けることを試みている。

クラブ活動として三富地区の児童だけでなく、牧丘地区の児童も加わり三富地区の方々の指導を得ながら練習を重ねた。10月の運動会、11月の「子ども祭り」では、地区の方々や保護者の前でその練習の成果を発表することができた。

### (2) 学校から地域へのアプローチ

#### ①「世代間交流グランドゴルフ」

市福祉協議会の支援を受け、諏訪、中牧、西保、三富地区の老人クラブの方々とグランドゴルフを行った。22名の老人クラブの方々と6年児童26名が6チームほどに分かれ競技を行い、老人クラブの方々と交流をすることができた。

学校統合により各地区かで子供の姿が見られなくなったとの声もあり、お年寄りと子供たちの交流を通じて、笛川小学校の様子をしっていただくこともでき有意義な活動とすることができた。

#### ②老人福祉施設への訪問

11月に4年生が地域の老人福祉施設「笛吹荘」への交流訪問を行った。事前学習として老人福祉に関する学習や当日のレク活動などの計画・準備を行い、地域の中で自分たちにできることは何かを考える学習の機会ともなった。

#### ③児童会活動「笛川小子どもまつり」の開催

児童会が中心となり、縦割り班ごとに準備を進め、ゲームなどのお店を出して楽しむ「笛川小子どもまつり」を11月9日に行った。日頃からお世話になっている駐在所の警察官や市役所職員、福祉協議会の方々、地域の住民に案内を出し、当日は保護者や地域の方々が70人以上来校し児童と一緒にゲームを楽しんだ。

また、太鼓クラブの成果として「笛吹童太鼓」を披露し、地域の方々の講評を得ることができた。

## 2 小・中の連携

### (1) 棚田の再生

#### ①「耕作放棄地を耕し、牧丘の景観を取り戻す」活動

牧丘地区在住の大学教員の方の提案により耕作放棄地を再生し昔ながらの牧丘の景観を取り戻す活動については、職員及び保護者による草刈りを行ってきた。しかし、児童の教育活動への位置づけ、学校以外の支援者の組織づくりなどが課題として残っている。今年度は、隣接する笛川中学校の1年生が耕作放棄地の一

部を開墾し、大豆の作付け、収穫を行った。小学校として地域のへのかかわりとしてどのように活動を展開するか、今後の課題として残っている。

## (2) 保育園との連携

保育所との交流の場である「2年生こどもまつり」の開催

12月11日(月)に、2年生の生活科で「こどもまつり」を企画し、学区内にある窪平保育所年長組の園児を招いた。園児にとっては、次年度に就学する予定の小学校になれる機会として、2年生児童にとっては、自分よりも年下の園児と交流することにより社会性を育む学習の機会として実施した。

## (3) 小・中連携による取組

### ①朝のあいさつ運動の取組

本校は「あいさつ日本一」「なかよし日本一」を合言葉に、地域と連携した教育活動を展開している。学校運営協議会の「委員会らも地域住民にわかりやすい言葉で地域づくりに貢献できるような取組を」との助言を受け、あいさつをすることから地域の方々との交流を図り、地域の活性化につなげたいと取組を進めている。

毎朝、児童が始業前にあいさつ運動をすることは定着し、児童の自主的な活動として行っている。また、12月には、笛川中学校の生徒が小学校へ、小学校の児童が中学校へ出向き、あいさつ運動を行うなどの取組も始めた。

### ②小・中連携による家庭学習への取組

小・中連携会議を通して、5年生6年生中学1年生の段階で、共通した学習規律の確立、家庭学習への取組を行うことを確認した。中学校1年生が行っている家庭学習振り返りシートを小学校高学年用にアレンジし、家庭学習の振り返り用のシートとして活用を始めている。小学校、中学校で共通した形で家庭学習に取り組むことで小学校から中学校へ進学した際の学習スタイルの早期の確立を目指した取り組みとすることができている。

また、試行的な試みとして、今年度は中学校の授業へ本校の6年生が3つのグループに分かれ参加し、授業体験を行った。児童の中学校進学への心構えや学習の取組の様子を体験を通じて学ばせることができた。

## 3 地域の良さや伝統文化を実感できる教育活動

### (1) 葉ボタン栽培と地域への配布

昨年度と同様に葉ボタンの種まきを7月に行い、栽培をした。11月には、児童会役員が地域の老人福祉施設などへ配布した。

### (2) 「棚田の再生」(省略)

### (3) 「笛吹童太鼓」のクラブ活動への導入(省略)

## 4 ICT機器を活用した実践及び情報発信

### (1) タブレット端末の活用とアクティブ・ラーニング型の授業

#### ①ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの指導方法の確立

昨年度から引き続き、ICT機器を活用した話し合い活動を通して、効率よく授業を展開し、児童同士の協同的な学びの場を保証し、学びを深める話し合い、活動の充実を目指し研究を進めてきた。

#### 【校内の授業実践】

- ・10月25日(水)第2学年授業研究会 授業内容：道徳

・ 11月 8日(水) 第4学年授業研究会 授業内容：特別活動

②その他の教科におけるタブレット端末の利用

【1年生】生活科・「季節の物となかよしになろう」－季節の植物をタブレットで撮り、友達に紹介した。

【2年生】図工・「作成した作品を友達の紹介しよう」－自分の作品をタブレットも使い、友達に紹介した。

音楽・常時活動においてタブレット端末を使用して教材の提示をした。

・創作活動において自分の音をタブレットで録音して音さがしをした。

【3年生】国語「つたえよう楽しい学校生活」－発表会に向けてリハーサルをタブレットで録画し話し合いをした。

社会「わたしたちの大好きなまち」－社会科見学で気になる場所を見つけタブレットで撮り、発表した。

算数「1000より大きい数を調べよう」－数人に考えをタブレットで撮り、共有しながら考えを深める。

理科「たねをまこう」－植物の成長記録を撮り、記録した。

【4年生】図工「光と影から生まれる形」「トロトロ・カチコチワールド」作品撮影をして発表した。

社会「校外学習」の記録をした。

【5年生】国語「次への第一歩～活動報告書～」委員会活動の紹介をタブレットで作成し紹介した。

理科「自由研究」のまとめと発表をした。

体育「マット運動」自他の動きの確認をした。

【6年生】国語・算数・社会においてedutab(同期型CSCLシステム)を用いて、児童の思考などを学級全体でリアルタイムに共有できる環境を設定し、授業実践を行った。

(2) ICT機器の活用による会議資料等の精選及び効率化

山梨市は、今年度から笛川小学校を指定し、校務支援システムの導入を開始した。市内全ての小中学校で導入されたグループウェア及び本校を研究校として導入された校務支援システムの試行的な運用により会議資料の精選、データ化による印刷・配布時間の軽減、打ち合わせ・会議の時間の削減などを行ってきた。

朝の打ち合わせ資料などは、グループウェアのインフォメーション機能上に、文書データを掲載し各自で確認するなどの効率化を図った。校務支援ソフトの導入により、昨年度の取組として行ってきたエデュタブを活用した児童の出欠や感染症の一元管理は、校務支援ソフトでの管理へ移行し、より簡単に迅速に情報の共有を行うことができるようになった。

(3) ICT機器を活用した家庭学習

ICT機器を活用した家庭学習の取組については、タブレット端末の活用が校内に限定された状況から取組を行うことは困難であった。しかし、授業の中で、タブレット端末や電子黒板を用いて授業の組み立て、指導方法の工夫を図ることにより、話し合い活動を深めることができ、その振り返りを家庭学習で行うことで児童の学習への理解を進めることができた。

(4) 市内ICT機器活用研究指定校、機器活用センター校(ICTを活用した教育の推進)

校務支援ソフト、学習支援ソフトの選定及び、活用のための実践研究をする。今後2年間で研究し、市内に広める。本事業があつてこそその市の動きである。

5 アンケートから (9月実施)

「笛川小」の満足度やICTを活用した授業について

【児童アンケート】

- ・ 笛川小の生活は、楽しいか→楽しい93.2%
- ・ 4つの小学校が笛川小になってよかったか→良かった89.2%
- ・ タブレットやコンピュータを使った授業は楽しいか→楽しい98.2%
- ・ タブレットやコンピュータを使った授業はわかりやすいか→わかりやすい94.2%

【保護者アンケート】

- ・ 笛川小に楽しく通っているか→楽しく通っている96.9%
- ・ 4つの小学校が笛川小になってよかったか→良かった91.9%
- ・ 笛川小はタブレットやコンピュータを積極的に授業に取り入れているが、このことをどう思うか→よいと思う96.3%

いずれも高い数値であり、笛川小の研究・取組が成功していることがわかる数値である。(その他の評価結果は別紙 事業報告書 参照)

※必要に応じて、適宜、表を追加・削除すること。

(2) 成果物等

- ・ 平29年度 少子化人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業 事業報告書
- ・ 授業案 学校運営協議会だより 等収録

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

※成果物(冊子・パンフレット等の印刷物)については、10部添付すること。

※成果物(冊子・パンフレット等の印刷物)の電子媒体がある場合は、併せて送付すること。

(3) 今後の取組予定

- ・ ICTセンター校として、市内導入ソフトの研究  
(校務支援ソフト・学習支援ソフト)
- ・ 市内小中学校のコミュニティ・スクール化に向けて、市内の先進校である笛川小の報告、広報活動
- ・ 小中の連携(笛川小と笛川中の連携)について、さらなる実践と研究

※要点をまとめ、簡潔に記載すること。